

二〇二五年二月三日

流行り風邪一人うつらぬ子の元気
寒卵割れば吉兆黄味二つ
波高く鳶の高舞ふ冬の海
煤逃げで鉢合わせする親子かな
あるほどの話出尽くし置炬燵

なつき
みきお
やよい
みきお
うつき

二〇二五年二月二日

ボランティア揃ひのベスト落葉掃き
靴下の脱ぎ散らかつてゐる炬燵
冴ゆる夜や山峰に落つ月の影
歳時記の並ぶ炬燵が吾の書斎
木枯しに紙垂狂ほしき夜更けかな
常連の卒寿も歌ふ第九かな
省くこと多し独りの年用意

むべ
康子
勉聖
康子
わたる
千鶴
よし女

二〇二五年二月一日

風倒木深き落葉を褥とす
広池に縦横無尽鴨の水脈
朴落葉ばさつと大きな音立てて
湯たんぽを入れて一と日の仕事終ゆ
風切羽ゆつたりたたみ白鳥来

あひる
えいじ
むべ
うつき
ほたる

二〇二五年二月一日

濯ぎ物干す背に嬉し冬日燦
枯芝に弾む雀や玉日和
時雨過ぎ去りて日の射す石畳

きよえ
澄子
博充

錦繡の一山背なふ摩崖仏

愛正

神殿の光背めきし黄葉かな
薄明の蘆原に靄たちにけり
年の瀬を打ちやりコンサートの一と日
日に縫れ風にほどけて枯尾花

康子
ほたる
うつき
澄子

二〇二五年二月九日

冬日向句会場とすベンチかな
包丁の刃に身を締むるなまこかな

むべ
よし女

二〇二五年二月八日

寒夕焼立観音の面染むる

ぼんこ

二〇二五年二月七日

行き会ひてベンチで喋る園小春
散もみじ飛びつき掴む紅葉の手
蠟梅の蕾膨む日和かな
幼らも釣糸垂らす波止小春
枝打の杣人纏ふ檜の香

うつき
ふさこ
澄子
やよい
むべ

毎日句会みのる選・二〇二五年二月一五日